

令和5年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと
の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を
育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

①話すこと [やり取り]、話すこと [発表] を評価するパフォーマンステストの状況 (実施した学校の割合)
R 3 R 4
100% → 100%

②英語による言語活動の時間の割合(授業中の50%以上)
R 3 R 4
85.8% → 93.3%

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定状況等
R 3 R 4
設定 56.5% → 96.9%
公表 12.2% → 54.2%
把握 43.1% → 82.4%

②一定の英語力を有する小学校教師の新規採用
R 3 R 4
割合 10.9% → 12.3%

2. 分析

①教育センターの対面型の研修や研修動画配信、指導室の研修動画配信等でパフォーマンステストの実施方法や評価についての指導力が向上した。

②教育センターの各種研修や外国語指導アシスタントを全校に派遣していたことで、授業改善が進んだ。

①小中接続したCAN-DOリスト例を全小中学校に周知した。校長会と連携し、その活用方法や有用性を確認したことで、指導改善が進んだが、さらなる改善が必要である。

②採用試験の特例実施や近隣大学への働きかけを継続する必要がある。

3. 施策・事業

①②教育センター研修
・経年研修での外国語教育に関わる研修
・アイデアいっぱい！楽しい授業づくり講座 (夏季休業中に対面で実施)
・小学校教育課程研修会 (指導室と連携)
・ICTの効果的な活用に関する研修

①②外国語指導アシスタントの配置
・全小学校、特別支援学校 (小学部) に配置
5、6年生 1学級あたり年間47時間
3、4年生 1学級あたり年間23時間

①名古屋市教育課程 (例) の作成
CAN-DOリスト形式の学習到達目標と、単元の学習を結びつけた「名古屋市の教育課程(例)」を指導室、教育センター、校長会、研究会と連携して作成する。(令和6年度発出予定) その中で、CAN-DOリストの活用方法を示す。

②教員採用試験において、一定の英語力を有する小学校教師の志願者に優遇措置を引き続き実施する。

令和5年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を育成する。

(授業で学習した英語を使って、自分の考え、気持ちなどを話すことができると回答する生徒の割合60%)

1. 現状

改善が進んだ点

- ① CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定状況等
- | | R3 | R4 |
|----|-------|-------|
| 設定 | 100% | 100% |
| 公表 | 32.7% | 62.7% |
| 把握 | 56.4% | 79.1% |

未だ改善が必要な点

- ① 英語による言語活動の時間の割合(授業中の50%以上)
- | | R3 | R4 |
|--|-------|-------|
| | 55.0% | 52.1% |
- ② 英語担当教師の英語使用状況(発話の50%以上)
- | | R3 | R4 |
|--|-------|-------|
| | 49.0% | 44.5% |
- ③ 生徒の英語力の状況
CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒
- | | R3 | R4 |
|--|-------|-------|
| | 35.0% | 37.7% |

2. 分析

- ① 小中接続したCAN-DOリスト例を全小中学校に周知した。校長会や教育センターと連携し、その活用方法や有用性を確認したり、研修に取り入れたことで、授業改善が進んだ。

- ① 「言語活動」そのものの理解を深めること「言語活動を通して」資質・能力を育む授業改善を推進する必要がある。
- ② 英語担当教師の英語力は全国平均よりも高い。授業を英語で行うことを基本とし、実際のコミュニケーションの場とする授業改善が必要である。
- ③ 生徒が英語で考えを伝える機会を多くしたり、教員が英語で話す割合を増やしたりする必要がある。

3. 施策・事業

- ① 教育センター研修
- ・アイデアいっぱい！楽しい授業づくり講座
 - ・中学校教育課程研修会（指導室と連携）指導と評価の一体化を一層推進する。
- ①②③ 教育センター研修
- ・経年研修での外国語教育に関わる研修
 - ・アイデアいっぱい！楽しい授業づくり講座
 - ・中学校教育課程研修会（指導室と連携）
 - ・先導的なオンライン研修実証研究事業
 - ・ICTの効果的な活用に関する研修
- ①②③ ALTの配置（全中学校）
1学級あたり年間26時間
- ③ 英語教育実施状況調査の結果分析
全国学力学習状況調査の結果分析
→ 各種研修、教育課程（例）への反映
- ①② 研究会、校長会との連携
- ・Nagoya English Contest
 - ・中高連絡会

令和 5 年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

改善が必要な点

- ① 生徒の英語力の状況
CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒
R3 R4
47.9% → 54.9%
- ② 英語による言語活動の時間の割合(授業中の50%以上)
R3 R4
36.9% → 44.8%
- ③ 生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやりとりをする活動のため、ICT機器を活用した学校の割合
R3 R4
61.5% → 100.0%
- ④ 英語担当教師の英語使用状況(発話の50%以上)
R3 R4
35.6% → 34.3%

2. 分析

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するための研修の実施や、英語に特化したコースでの授業改善を強化したことで、生徒の英語力が改善された。
- ② 「言語活動」そのものの理解と「言語活動を通して」資質・能力を育むことの重要性を一層深める必要がある。
- ③ ICT機器の活用に関する研修を引き続き実施し、より効果的な活用の仕方について周知する必要がある。
- ④ 英語担当教師の英語力は全国平均よりも高いが、英語をコミュニケーションの手段として用いた授業改善を強化する必要がある。

3. 施策・事業

- ①②③④ 教育センター研修
 - ・高等学校教育課程研究集会
指導室と連携して実施する。各校各教科の代表者が参加する。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図る。
- ①②③④ 教育センター研修
 - ・経年研修での外国語教育に関わる研修
 - ・高等学校各科研修講座
最新の教育動向、新学習指導要領を踏まえ、授業力等の更なる向上を図る。
 - ・高等学校探究セミナー
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、理論を学び、演習を通して実践力を養う。各校代表者が参加する。
 - ・高等学校学びの変革研修
学習指導要領の趣旨に沿った高等学校における授業の在り方を研究し、教員としての資質・能力の向上を図る。
 - ・ICTの効果的な活用に関する研修
- ②④ ALT等の配置 (全高等学校)